

今朝（5月10日）礼拝の2時間ほど前に、コロナ禍のこともあり、会堂の窓を開け網戸にして更に中仕切りの硝子戸を開け、入り口の扉も開けておいた。すると前の方のベンチなどを直していると間もなく後ろから燕が二羽会堂に入ってきて輪舞しだした。暫くすると南側の窓の上に落ち着いて並んで静かに座っていた。司式補長老と妻が来るとまた飛び始めて今度は邪魔にならない後方のエアコンの上に落ち着いた。そのうち一羽が飛び立って網戸にぶつかったので、これは危ないと思って全部の網戸を開けた。すると試行錯誤か或いはわかってか一羽が窓から外に飛び立った。餌あるいは巢の材料を捜しに行ったのであろうか。もう一羽は会堂で合い方の帰りを待っているようであった。おそらくつがいであったのだろう。

燕には罪がないし説教の言葉も理解できないだろうが、被造物として共に礼拝に参加し神を讃美するのに与ってもよいのではないだろうかと思った。礼拝が終わるといつの間にか二羽ともいなくなった。ホッとしたが、少し寂しい思いも残った。後ろのテーブルの上には落し物があったが、いとおしく思った。

「あなたの祭壇に、鳥はすみかを作り つばめは巢をかけて、雛を置いています。万軍の主、わたしの王、わたしの神よ。」（詩編84：4）

鈴木淳一牧師